平成２５年度　学校自己評価システムシート

本庄東高等学校

目指す学校像	建学の精神 　本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 　徳育、知育、体育を一体として生徒各自の個性を尊重し、自己の才能を十分に発揮させることに努める。特に勤勉、愛情、聡明を信条とし円満な人格の向上を目指して愛情豊かに聡明で勤勉な性格の形成に努める。
重点目標	１．　常により高い学習目標を掲げ、各自の進路希望の実現に向けた学習活動を支援できるよう努める。 ２．　進路目標達成のための実力が身につくような授業を展開するようにする。 ３．　学校行事や生徒会活動への積極的な参加と、行事を通してクラスの団結・融和を図る。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

学　校　自　己　評　価							
	年　度　目　標				年　度　評　価　（3月３１日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	年度末への課題と改善策
1	入学者の、ほぼ全員が大学進学を希望している現状を踏まえ、しっかりとした将来設計と、そのための勉強ができる大学に合格できる学力・実力を身に付けさせる。	進路指導	担任との朝面談などを通し、生徒の現状と将来の希望を把握すると同時に精神面のサポートをする。模試を受験することにより生徒各自の現在の実力と今後の学習目標を設定、進路目標が達成できるように指導していく。 進路講演会やキャリア教育講演会などの実施で、受験についての知識や職業観を身につけ、希望進路先の情報収集をおこなう。	将来設計や進路目標を明確化することができたか。オープンキャンパスへの参加、大学案内や情報誌などから、希望進路先での学習内容や就職先などの情報収集がおこなえたか。	３年生対象の大学説明会は、公立大学２校を含む１２校の教授や入試担当者を招いて実施できた。長期休業中には外部講師を迎えての補習（延べ３２講座）などを実施した。以外にも、衛星放送の利用などにより学力向上を図ってきた。 卒業生４１９名の四年制大学合格率は、８７．４％で、東大３名・京大４名をはじめとする国公立大学に延べ９７名、早慶上智９６名延べ１０７４校の私立四年制大学に合格している。	A	現役合格率の向上と、国公立大学への合格者を増やすと同時にその内容の充実をはかるため発足した東大プロジェクトも５年目を迎えている。入学後の早い時期から、大学入試を意識できるように情報提供しながら、入試に向けた学習が継続的にできるような環境作りをする。
2	希望進路に合わせ、中高一貫・特進選抜・特進・進学というコース別クラス編成をおこなっている。各コースに適した授業展開から、生徒一人一人の希望進路実現に向けた授業展開をする。	授業改善	教科内研修を充実させ、生徒の実情にあった授業展開と理解度を高められるようにする。 外部で行なわれる教科指導研究会などへの積極的参加や、教科担当者同士の連絡や授業研修など、横の連絡を密にする。	計画的な授業展開を行い履修者全員がより深く理解でき、その後の発展的課題に取り組めるような知識を身に付けられたか。	コース主任やクラス担任が目標設定を明確にし、各コース・クラスの目標にあうような授業展開をした。理解度の低い生徒に対しては補習となるサポートタイムを実施している。授業研修やその評価会を通じて教科内の連絡も密に行なわれた。	B	各コース・クラスの目標を達成できるような授業展開をおこない、同時に履修者全員が授業内容を理解できるよう目指す。模試や小テスト結果より生徒への定着度を測り、定着度の向上が必要な場合などは放課後のサポート実施などで対応する。
3	体育祭・学園祭、進路講演会や教育講演会、芸術鑑賞など多くの行事を実施している。これらの行事への参加からクラスや学年、生徒同士の理解と融和を図る。	学校行事	学校行事における目標設定を通じて、生徒間の理解と仲間意識を高める。	各行事に協調性をもって参加できたか。クラスや学年内での交流ができたか。行事後、事後指導を行い、次回の行事に向けた指導ができたか。	１年生の校外研修や古典芸能鑑賞、２年生のカナダ修学旅行、３年生の芸術鑑賞や、ロバート キャンベル氏を迎えての教育講演会など多くの学校行事を実施することができた。	A	学校行事を今以上増やすことは困難なのが現状である。来年度も今年同様の実施となるが、工夫により内容の向上を図る努力を行なえるようにする。
3	多感な時期の高校生活のなかで、学業だけでなく、他にも打ち込めるものをもてるようにする。また、将来に向けても、多くの事柄にチャレンジする精神を養えるようにする。	部活動	部活動へ参加することが負担となり学業に支障が出ないように、定期考査前の部員対象の質問時間の実施などを通じて、勉学との両立を図れるように配慮する。外部コーチへの指導依頼などを通じ技術の向上を図る。	参加することが負担となり学業に支障が出ないよう工夫し、文武両道を目指す。積極的に活動に参加できるような環境作りができたか。各クラブが上位大会への出場できるようになったか。	男女陸上部、水泳部の関東大会、全国高校総体、スキー部の関東大会、高校総体、国体出場があった。文化部でも地域貢献や、展覧会などで多くの結果を残している。 部活動参加者の四年生大学現役合格率は９１．９％となっている。文武両道を目指した環境作りが進んでいる結果と考えられる。	A	クラブ活性化委員会が発足して６年となる。その結果として、多くのクラブでの県大会出場や、男女陸上、水泳、男子ソフトテニス、スキーなどのクラブでの関東大会や、高校総体などの出場があった。今後も、結果を残せるようにする。